

ウスユキソウ キク科
Leontopodium japonicum Miq.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



氷ノ山 2007.7.20/撮影：永松 大

■**選定理由**：氷ノ山の岩壁にわずかに自生する。生育基盤は脆弱で、個体数が増加する可能性は低い。

■**特徴**：山地の乾いた草原や岩場に生育する小型の夏緑性多年生草本。ウスユキソウ属の他の種は全て高山にしか生えないが、ウスユキソウは分布範囲が広く、ブナ帯から見る事ができる。高さ25–50 cm。茎葉を多数つけ、無柄で披針形。葉の綿毛は、表面は少々、裏面には密生。花期は7–8月、茎頂と枝の先に数個の頭花を密生する。白く花びらのような部分は苞。ウスユキソウ属のほかの種では苞の白い毛が密生するが、ウスユキソウでは少ない。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州，四国，九州。中国。

■**保護上の留意点**：山地森林の保護，保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：永松 大

マルバダケブキ キク科
Ligularia dentata (A.Gray) H.Hara

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



倉吉市 2010.9.15/撮影：磯江茂秋

■**選定理由**：県内の自生地は少なく、個体数も少ない。近年自生地の乾燥化が進み、個体数が減少している。

■**特徴**：ブナ帯域の日当たりのよいやや湿り気のある草原にはえる多年生草本。高さは1 mにもなる。茎は直立し太く、根出葉は長柄を持つ。葉身は円形で大きい。花期は7–8月、茎の先散房状に多数の頭花をつける。頭花は径5 cmほど、黄色。舌状花は長い花冠をもつ。総苞は黒っぽくつばみの時からよく目立つ。

■**分布** 県内：倉吉市関金町，江府町。県外：本州（中部以北），四国（まれ）。

■**保護上の留意点**：山地の湿った草原の維持。

■**文献**：—

執筆：磯江茂秋

メタカラコウ キク科
Ligularia stenocephala (Maxim.) Matsum. et Koidz.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



氷ノ山 2010.8.16/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の限られた場所にだけ生育し、個体数も少ない。湿潤な急傾斜地や崖錐の不安定な場所で生育基盤は脆弱。

■**特徴**：山地の溪谷沿いの湿潤な場所に生育する多年生草本。高さ30–80 cm。根出葉は三角状心形，鋭突頭，葉の基部はほこ形。花期は6–9月。総状の長い花序に密に頭花をつける。頭花には黄色い舌状花が1–3個。近縁種のオタカラコウはメタカラコウにくらべて大形で、葉の基部が心形，舌状花がより多い。県内ではオタカラコウは個体数，生育地とも多いが，メタカラコウは少ない。

■**分布** 県内：若桜町，三朝町。県外：本州，四国，九州。中国。

■**保護上の留意点**：溪谷沿いの自然植生の保護，シカの食害に注意。

■**文献**：—

執筆：井上喜美子

オオモミジガサ キク科

Miricacalia makineana (Yatabe) Kitam.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



氷ノ山 2005.7.28/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部のブナ帯溪谷に局所的に生育。深山の溪谷に生育するため大雨や倒木によるかく乱の影響を受け、個体数変動が大きい。

■**特徴**：県内では氷ノ山の溪谷の湿った部分に生育する大形の多年生草本。茎は高さ1 mほどになり、全体に縮れた毛がある。茎葉は2-3枚が互生、下部の葉は長柄があって葉身大きく、円形で基部心形、掌状に9-12深裂する。花期は7-8月。総状花序に20個ほど、淡黄色の頭花をつける。谷間の斜面に群生するため、大雨により流水付近の個体が流され減少する。別名トサノモミジガサ、太平洋側に多く分布する。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州（福島県以南）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地溪谷の自然環境の保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ウスゲタマブキ キク科

Parasenecio farfarifolius (Siebold et Zucc.) H.Koyama var. *farfarifolius*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



三朝町 2010.10.18/撮影：礪江茂秋

■**選定理由**：県内各地の山間地林内に点在するが、個体数は少ない。

■**特徴**：ブナ帯域の森林内に生える多年生草本。茎は高さ50-80 cm。葉柄は長め、葉はやや薄く三角状心形で、上面には粗い毛が散生する。裏面の綿毛は少ない。葉腋にむかごができるのが特徴。花期は8-10月。茎の先に円錐花序をつくって白色の頭花を多数つける。頭花は筒状花のみのため、花弁状のものはみえない。

■**分布** 県内：若桜町、三朝町、倉吉市関金町、琴浦町、江府町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：ブナ帯域の森林植生保護。

■**文献**：—

執筆：礪江茂秋

ニシノヤマタイミンガサ キク科

Parasenecio yatabei (Matsum. et Koidz.) H.Koyama var. *occidentalis* (F. Maek. ex Kitam.) H.Koyama

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



琴浦町 2010.8.29/撮影：松田万由美

■**選定理由**：県内の確認地は現在1カ所のみ。5年前に比べ2010年は株数が減った。開花も1株しか確認できず、衰退が確実。評価時にはVU相当と判断したが、より悲観的な判断も考えられる。

■**特徴**：深山のやや湿った落葉樹林下に群生する多年生草本。県内唯一の確認地は、トチノキ、ケヤキ、イヌシデ、ヤマザクラ等が生える樹林下。葉は長柄を持ち、葉身は長さ幅とも30-40 cm。掌状に9-10裂し、表面は緑色で無毛、裏面はやや白色を帯びた薄緑色で脈にちぢれ毛がある。基部は深い心形。縁には粗い鋸歯がある。花期は8月、頭花は円錐花序につき、小花は2-3個と少ない。タイミンガサと異なり葉は盾状につかない。

■**分布** 県内：琴浦町。県外：本州（岐阜県以西）、九州。

■**保護上の留意点**：自生地の自然植生保護。生育に必要な環境条件の調査が必要。

■**文献**：—

執筆：松田万由美

カシワバハグマ キク科

Pertya robusta (Maxim.) Makino

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



智頭町 2010.10.1/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：初版で記録されていた自生地ではほとんど見つからなくなった。里山の手入れ放置で生育環境が悪化し減少している可能性が高い。

■**特徴**：半自然の明るい落葉広葉樹林にはえる多年生草本。茎は直立，高さ30–70 cm。葉は互生し有柄，茎の中央部にやや輪生状。葉身は卵状長楕円形で長さ10–20 cm，鋭頭，まばらに欠刻状のあらい鋸歯がある。花期は9–10月，白色。穂状につき，総苞は短い円柱形，総苞片は紫色を帯び美しい。智頭町中原にあるウラジロガシ林の林縁では，カシが倒れ露岩の崩壊防止工事をした際に絶滅した。県内では植林林縁部と雑木林の境界に多く見られる。植林したスギやヒノキの成長にともない絶滅のおそれがある。

■**分布** 県内：智頭町。県外：本州，四国，九州，太平洋側。

■**保護上の留意点**：里山の広葉樹林の保全管理。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

フクオウソウ キク科

Prenanthes acerifolia (Maxim.) Matsum.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



氷ノ山 2009.9.4/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：東部の山地渓谷の岩場と溪流沿いに生育する。個体数が少ないうえ，溪流沿いでは豪雨で流失することも多い。

■**特徴**：ブナ帯域の岩壁の割れ目に生育する多年生草本。谷間の溪流沿い岩場に見かけることがあるが，流失するか被陰による成長不良で消失することが多い。地下茎は岩の割れ目に匍匐し群生する。花茎は直立し高さ70 cmほど。全体に開出毛が多い。根出葉は翼があり長柄，広卵形で3–5裂する。花は8–9月，青白色，円錐状に多数つける。頭花は横または下向きに咲く。近年の異常気象のためか，岩の割れ目に生育している個体の減少がすすんでいる。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：山地岩場の自然林の保護と採取の防止。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ミヤコアザミ キク科

Saussurea maximowiczii Herder

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2005.9.9/撮影：野津 昭

■**選定理由**：県内では西部の山間地で確認されている。全国的には普通種とされるが，山地草原の減少にともなって県内では希少化。

■**特徴**：山地のやや湿った草原に生育する大型の多年生草本。トウヒレンの仲間。根出葉は長柄があり長楕円形で羽状に深裂，大きなロゼットを形成し，秋まで残る。草丈は1–1.5 mに達し，上部で枝分かれする。茎葉は小さく，上部の葉は全縁。9–10月，散房状に径10 mmほどの淡紅紫色の頭花を上向きに多数つける。総苞は細い筒型で長さ15 mmほど，帯紫色。日南町の自生地では，スギを伐採した溪流周辺に点々と出現し，漸増傾向にある。明るい草原のほかにも明るい落葉林内の湿潤地にも見られる。

■**分布** 県内：江府町，日野町，日南町。県外：本州（福島県以南），四国。

■**保護上の留意点**：山地草原と湿潤地周辺草地の保全管理。

■**文献**：—

執筆：野津 昭（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

オオダイトウヒレン キク科

Saussurea nipponica Miq.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



氷ノ山 2007.8.24/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：氷ノ山の渓谷岩場の林縁部にわずかに生育。生育環境が限定され、豪雨や崩壊により個体群の変動が大きい。

■**特徴**：ブナ林帯の渓谷岩場の肥沃土上に生育する多年生草本。地下茎は匍匐する。茎は高さ1 m近くになり、狭い翼がある。根出葉には長柄があり、広卵形で基部心形、低歯芽縁、花時にも残る。花期は8-9月、頭花は散房状に多数つく。総苞は長さ1.5 cm、総苞片は反曲、褐色の軟毛が密生する。生育地は渓谷岩場の谷筋であるため、積雪、豪雨の影響が顕著で、個体群の状態は安定しない。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州（近畿以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地渓谷の自然植生保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆者：坂田成孝

ヒメヒゴタイ キク科

Saussurea pulchella (Fisch. ex Hornem.) Fisch.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



琴浦町 2000年頃/撮影：清水寛厚

■**選定理由**：県内では以前、船上山の草地で記録されていたが、現在は見つかっていない。半自然草原の維持管理と継続的な調査が必要。

■**特徴**：日当たりのよい草原に生育する越年生草本。茎は直立し、上部でよく分枝して、高さ120 cmに達する。葉は互生し、広披針形で下部では羽状深裂、上部では全縁。両面に細毛がある。花期は8-10月。散房状に多数の紅紫色の頭花をつける。頭花は径15 mm程度、総苞片の先端に膜質で紅紫色の付属体があり、つぼみ時から人目をひく。低草地を好み、ササに覆われると衰退する。海岸の風衝草原に自生する場合もある。

■**分布** 県内：確実な自生地なし。県外：北海道、本州、四国、九州。中国、シベリア東部。

■**保護上の留意点**：明るい草原の維持管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆者：永松 大

キクアザミ キク科

Saussurea ussuriensis Maxim.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



琴浦町 2010.9.12/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での確認は1地域のみ。草原の維持管理不足による環境変化とともに2010年にかけて生育本数の激減がみられ、今後が心配される。

■**特徴**：日当たりのよい山地の草原に生育する多年生草本。高さ0.5-1.2 m。根出葉には長柄があり、卵形又は広卵形で羽状に裂ける。葉縁は鋭い鋸歯があり、葉身は薄い。花期は9月下旬-10月上旬。頭花は散房状につくが、花柄は短く密集する。頭花は淡紅色。自生地は火入れが行われなくなって他の草本に被圧され減少したものと考えられる。類似のミヤコアザミは葉が羽状に深裂し、花柄が長く頭花がまばら。

■**分布** 県内：琴浦町。県外：本州（福島県以南）、九州。朝鮮、中国、アムール。

■**保護上の留意点**：草原の維持管理、火入れの復活。

■**文献**：—

執筆者：矢田貝繁明

ハンゴンソウ キク科

Senecio cannabifolius Less.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



江府町 2008.8.15 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では西部の高標高地林縁に自生が限定されている。個体群は孤立しており、存続に懸念がある。

■**特徴**：日当たりのよい深山の湿地周辺や河畔沿いに生育する大形の多年生草本。茎は直立し高さ1–2 m，葉は掌状羽状深裂，微小鋸歯縁，大形で長さ5–20 cm，上部の葉は小形化し3深裂–単葉，基部は葉柄に沿下する。花期は8–9月。茎頂に散房花序をつくり，頭花は黄色で径約2 cm，多数密生する。和名は若芽の強い香りを漢の光武帝夫人の霊を慰めた反魂香にたとえたものとも，葉の形からきたものともいわれる。

■**分布** 県内：江府町，日南町。県外：北海道，本州（中部以北）。朝鮮，中国，シベリア東部。

■**保護上の留意点**：生育地の湿地環境の保全管理。採取防止。

■**文献**：25.

執筆：藤原文子（鳥取県西部野生希少植物保全調査研究会）

ヤマザトタンポポ キク科

Taraxacum arakii Kitam.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



八頭町 2010.5.9 / 撮影：有川智己

■**選定理由**：全国的に生育地に限られる。生育地が孤立している。

■**特徴**：在来の黄花倍数体タンポポ。頭花はやや大きく色は淡い。総苞外片は上向きで、長さが内片の半分程度で、縁が赤くなることが多い。

■**分布** 県内：若桜町香田，八頭町稗谷・三山口・茂田・落岩・麻生・中村，鳥取市上砂見，国府町新井・宮下，三朝町神倉・坂本，伯耆町柘原・大坂・白水・大殿・福岡，米子市青木・皆生・湊山公園，境港市上道町，日野町板井原・秋縄・榎市，日南町河上・折渡で確認。米子や境港など平地のものは要再検討。県外：近畿北部，中国地方，四国。

■**保護上の留意点**：タンポポ類は分類学的実態が不明瞭のため現状を把握する調査や分類学的再検討が必要。山里の環境の維持。

■**特記事項**：山間部で見られる角状突起の著しいものはケンサキタンポポ *T. ceratolepis* Kitam. として区別されてきたが，中間型が多く区別不能。

■**文献**：49,69,91.

執筆：有川智己

カンサイタンポポ キク科

Taraxacum japonicum Koidz.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2010.5.9 / 撮影：有川智己

■**選定理由**：隣接する兵庫県の南部や岡山県では普通に見られるが，県内では生育地に限られる。外来種との交雑による影響も懸念される。

■**特徴**：在来の黄花二倍体タンポポで，直径25 μm程度の大きさがそろった花粉をつくり，有性生殖をする。頭花は小型で総苞は細く，総苞外片は上向きで長さは内片の半分以下と短く，角状突起は小さい，

■**分布** 県内：智頭町から鳥取市用瀬町西部にかけての谷間の路傍に点在。八頭町落岩，鳥取市北村，鳥取市青谷町長和瀬，倉吉市中河原，米子市福市，伯耆町岩立でも確認されたが，道路沿いや都市公園内のため人為的な移入の可能性がある。県外：関西地方・東瀬戸内一帯に普通。

■**保護上の留意点**：生育地の周辺では地形改変による外来種の侵入などに注意が必要。

■**文献**：90,91.

執筆：有川智己

クシバタンポポ キク科

Taraxacum pectinatum Kitam.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市国府町 2010.5.15/撮影：有川智己

- 選定理由**：全国的に生育地に限られる。生育地が孤立している。
- 特徴**：在来の黄花倍数体タンポポ。頭花はやや大きく色は濃い。総苞外片は短く、内片に圧着し、外片中央が隆起して総苞下部が膨らんで見える。葉が深く羽裂し櫛の歯状になることが多い。山間部の路傍に生育。
- 分布** 県内：智頭町駒帰・西谷，鳥取市国府町雨滝・下木原・菅野，鳥取市河原町小河内，鳥取市岩坪，三朝町神倉・木地山，琴浦町中津原，大山町種原，江府町宮市・貝田，日野町板井原，日南町豊栄・阿毘緑・破波で確認。岩美町網代の個体群は消失。県外：近畿北部-山陰，四国。
- 保護上の留意点**：タンポポ類は分類学的実態が不明瞭のため現状を把握する調査や研究が必要。山里の環境の維持。
- 特記事項**：ヤマザトタンポポを本種のシノニムとする見解（文献49）があったが最近は否定されている。国立・国定公園採取禁止指定種。
- 文献**：49,69,91.

執筆：有川智己

コウリンカ キク科

Tephrosia flammea (Turcz. ex DC.) Holub subsp. *glabrifolia* (Cufod.) B. Nord.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



三朝町 2006.9.3/撮影：坂田成孝

- 選定理由**：県内では中部の山地草原にわずかに自生する。個体数少なく、大山では絶滅した可能性が高い。
- 特徴**：日当たりの良い山地の草原に生育する夏緑性の多年生草本。茎は細く直立し、上部にはクモ毛がある。根出葉には長柄があるが、花期には枯れる。茎葉は広倒披針形-披針形で基部はやや茎を抱く。花期は7-9月。頭花はやや散状に数個つく。径3-4 cmで橙黄色。長い舌状花があり、下を向くほど反り返り、目につきやすい。花の形と色が特徴的で、花期には採取される可能性がある。
- 分布** 県内：倉吉市関金町，三朝町。県外：本州（福島県-広島県）。
- 保護上の留意点**：山地の半自然草原の保護、保全。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種
- 文献**：—

執筆：永松 大

■参考文献 維管束植物

1. 荒木 悟・國井秀伸 (2007) 湿生植物オオクグの結実率とその群落規模との関係. 陸水学雑誌, 68: 261-268.
2. Hashimoto, T. (1990) A taxonomic review of the Japanese *Lecanorchis* (Orchidaceae). Ann. Tsukuba Bot.Gard., 9: 1-40.
3. 橋本 保・神田 淳・村川博実 (1991) カラー版 野生ラン. 家の光協会 (東京) 295pp.
4. 兵庫県農政環境部環境創造局自然保護課 (編) (2010) 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック2010(植物・植物群落). 財団法人ひょうご環境創造協会, 217pp.
5. 伊田弘実 (1973) カラー 大山の花たち. 米子市観光協会 (米子) 215pp.
6. 伊田弘実 (1976) 大山花の散歩. 山陰放送 (米子) 280pp.
7. 池田鍵蔵・遠藤 博 (1996) タヌキマメ. p. 66. In: 原色野草検索図鑑 (離弁花編). 北隆館 (東京), 127pp.
8. 池田鍵蔵・遠藤 博 (1996) ドクゼリ. p. 98. In: 原色野草検索図鑑 (離弁花編). 北隆館 (東京), 127pp.
9. 池田鍵蔵・遠藤 博 (1996) ツガザクラ. p. 6. In: 原色野草検索図鑑 (合弁花編). 北隆館 (東京), 127pp.
10. 池田鍵蔵・遠藤 博 (1997) ミズオオバコ. p. 3. In: 原色野草検索図鑑 (単子葉植物編). 北隆館 (東京), 122pp.
11. 池田鍵蔵・遠藤 博 (1997) ツガザクラ. p. 15. In: 原色新樹木検索図鑑 (合弁花編). 北隆館 (東京), 127pp.
12. 池田鍵蔵・遠藤 博 (1997) 原色新樹木検索図鑑 (合弁花編). 北隆館 (東京), 127pp.
13. 井上喜美子 (2006) 鳥取県における植物6種の採集記録. 山陰自然史研究, 2: 43-44.
14. 井上雅仁・松村美幸・野上篤孝 (2009) 枚村喜則氏収集植物標本目録 (I). 島根県立三瓶自然館・しまね自然と環境財団.
15. 角野康郎 (1994) 日本水草図鑑. 文一総合出版 (東京) 179pp.
16. 門田裕一 (2002) 広島県から再発見された幻のアザミームラクモアザミ. 国立科学博物館ニュース, 402: 14-15.
17. 神谷 要・國井秀伸 (2001) 汽水性沈水植物リュウノヒゲモに水鳥が与える影響について. 水草研究会会報, 72: 33-35.
18. 勝山輝男 (2005) ホスゲ. p. 67. In: 日本のスゲ. 文一総合出版 (東京) 375pp.
19. 勝山輝男 (2005) ミヤマイワスゲ. pp. 278-279. In: 日本のスゲ. 文一総合出版 (東京) 375pp.
20. 川上明敏・清水寛厚 (1993) 金華山, 熊野神社社叢. pp. 82-83. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
21. 川上明敏・清水寛厚 (1993) 船通山の自然植生. pp. 162-163. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
22. 河野昭一 (1987) カタクリの生活史. pp. 60-91. In: 植物の世界 ナチュラルヒストリーへの招待. 教育社 143pp.
23. 木原清志・山本晴恵 (1989) 鳥取県における分布上注目される植物3種の発見. 鳥取生物, 23: 1-3.
24. 木原清志・清水寛厚 (1993) 扇ノ山のブナ林. pp. 106-107. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
25. 北村四郎・村田 源・堀 勝 (1957) 原色日本植物図鑑草本編 (I)・合弁花類. 保育社 (大阪) 297pp.
26. 北村四郎・村田 源・小山鐵夫 (1964) 原色日本植物図鑑草本編III・単子葉類. 保育社 (大阪) 465pp.
27. 清末幸久 (編) (2004) 鳥取県立博物館所蔵目録48 鳥取県立博物館維管束植物コレクション目録 2004. 鳥取県立博物館 99pp.
28. 清末幸久 (編) (2005) 鳥取県立博物館所蔵目録49 鳥取県立博物館維管束植物コレクション目録 2005. 鳥取県立博物館 89pp.
29. 清末幸久 (編) (2006) 鳥取県立博物館所蔵目録50 鳥取県立博物館維管束植物コレクション目録 2006. 鳥取県立博物館 55pp.
30. 清末幸久 (2006) 鳥取県におけるヒナノシャクジョウの初記録. 鳥取県立博物館研究報告, 43: 17-18.
31. 小林禧樹・黒崎史平 (2005) 西日本におけるホスゲの新産地 (新たな分布西限地). Bunrui 5 (1): 39-41.
32. 小林一彦 (2003) 氷ノ山赤倉の植物. 鳥取県生物学会総会発表資料, 2003年1月.
33. 國井秀伸 (1995) イトクズモ. 汽水湖, 8: 27. (財) 宍道湖・中海汽水湖研究所. 松江.
34. 國井秀伸 (1995) 汽水域における水生植物の多様性について. 日本海水学会誌, 49: 136-139.
35. 國井秀伸 (1998) リュウノヒゲモ. 汽水湖, 11: 52. (財) 宍道湖・中海汽水湖研究所. 松江.
36. 國井秀伸 (2000) 中海米子湾彦名処理地の水生植物. ホシザキグリーン財団研究報, 4: 1-5.
37. 國井秀伸 (2001) 宍道湖・中海における水生絶滅植物の分布. Laguna, 8: 95-100.
38. 丸岡道行 (2007) 赤倉山周辺の植物調査. 兵庫県植物誌研究会会報, 74: 1-3.
39. 丸岡道行 (2010) 氷ノ山山域 (兵庫・鳥取県境) の岩場と草地で観察された植物. 兵庫の植物, 20: 1-6.
40. 松本 綾・清水寛厚 (2001) 鳥取県佐治川流域における春植物アズマイチゲやアマナ類などの分布特性. 鳥取生物, 33: 1-6.
41. 松岡嘉之 (1982) 写真集 大山の仲間たち. 自費出版, 111pp.
42. 森本満喜夫 (1993) 中津北尾根のミツガシワ湿原. pp. 236-237. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
43. 森本満喜夫 (1993) 高丸山のベニドウダン群落. pp. 210-211. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
44. 森本満喜夫・清水寛厚 (1993) 橋津海岸のトウテイランナーオオエゾデンダ群落. pp. 254-255. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県

- 275pp.
45. 森本満喜夫・清水寛厚 (1993) 田内城山 (仏石山) のアオネカズラ群生地. pp 256-257. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
 46. 森本満喜夫・清水寛厚 (1993) 俵原のミツガシワ湿原. pp. 234-235. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
 47. 森本満喜夫 (2005) 続大山の住人たち. 今井出版 (米子) 282pp.
 48. 森本満喜夫 (2010) 三徳山の植生永遠に. 三朝町教育委員会 (三朝) 228pp.
 49. Morita, T. (1995) *Taraxacum*. pp. 7-13. In: Iwatsuki, K., Yagasaki, T., Boufford, D. E. & Ohba, H. (eds.) Flora of Japan IIIb. Kodansha (Tokyo).
 50. 永松 大・富永彩恵 (2007) 鳥取砂丘の植生と植生管理の試み. pp. 28-38. In: 鳥取砂丘景観保全協議会 (編) 鳥取砂丘景観保全調査報告書. 平成19年3月. 鳥取砂丘景観保全協議会 93pp.
 51. 永松 大・坂田成孝 (2008) 鳥取県東部における山地草原性スミレ類の生育状況. 山陰自然史研究, 4: 49-55.
 52. 永松 大 (2010) 浦富海岸鳴ヶ磯 (鳥取県岩美町) の植生構造. 山陰自然史研究, 5: 1-7.
 53. 永松 大 (2011) 絶滅危惧種クマガイソウの鳥取県における自生状況. 山陰自然史研究, 6: 9-15.
 54. 永松 大 (編) (2011) 平成22年度鳥取県特定希少野生動植物モニタリング調査報告書. 鳥取県 70pp.
 55. 永田芳男 (写真)・畔上能力・菱山忠三郎 (編) (2005) 山に咲く花, 山と溪谷社 (東京) 591pp.
 56. 内藤和明 (1996) 人為植生に生育する絶滅危惧植物の生態学的研究. 広島大学総合科学部紀要IV理系編, 22: 217-220.
 57. 中西 収・小林禧樹・黒崎史平 (2006) キヨスミウツボの生活. 兵庫県植物誌研究会, 108pp.
 58. 中田政司・竹内 基 (1998) 氷見市大境産サンインギク個体群の変異. 富山県中央植物園研究報告 3: 1-16.
 59. 中田政司 (1999) ワカサハマギクの自生地とその現状. 富山県中央植物園研究報告, 4: 1-15.
 60. 鳴橋直弘・広田奈穂美・大西真都香・岩坪美兼・堀井勇次郎 (2001) 日本産ワレモコウ属の花の比較形態. *Journal of Phytogeography and Taxonomy*, 49: 137-148.
 61. 日本山岳会山陰支部 (編) (1989) 山陰の百山. 日本山岳会山陰支部 (米子) 201pp.
 62. Oda, J., Tanaka, A., Naiki, A. and Nagamasu, H. (2003) *Carex jubozanensis* (Cyperaceae), a new species from Japan. *Acta Phytotaxnomica et Geobotanica*, 54: 127-135.
 63. Okayama, M., Yagame, T., Yamato, M. and Iwase, K. (2010) From unspecified *Russula* to three specific lineages of *Lactarius* - shift of fungal partners in myco-heterotrophic orchids, *Lecanorchis* spp. 9th International Mycological Congress.
 64. 岡山県生活環境部自然環境課 (2009) 岡山県版レッドデータブック2009-絶滅のおそれのある野生生物-
<http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/sizen/reddatabook/> (2010.12.20).
 65. 岡山理科大学星野研究室 (2010) カヤツリグサ科植物図鑑. <http://www.hos0.big.ous.ac.jp/~hoshino/Labo/colorzukan/hyosi.htm> (2010.12.20).
 66. 奥田重俊 (編著) (1997) 日本野生植物館. 小学館 (東京) 631pp.
 67. 坂田成孝 (2002) 鳥取県東部における水田植物の分布について-秋の水田を中心として-. 鳥取生物, 35: 7-10.
 68. 崎尾 均・山本福寿 (編) (2002) 水辺林の生態学. 東京大学出版会 (東京) 206pp.
 69. 芹沢俊介 (2006) 淡黄色花タンポポの分類. 植物地理・分類研究, 54: 21-26.
 70. 清水寛厚・坂田成孝 (1973) 鳥ヶ山のミヤマハンノキ林-植物社会および分布について-. 大山隠岐国立公園・大山地区学術調査報告. 日本自然保護協会調査報告, 45: 129-139.
 71. 清水寛厚 (1990) 唐川湿原の植物相. pp. 63-69. In: 岩美町教育委員会 (編) 唐川のカキツバタ群落調査報告書. 岩美町教育委員会 96pp.
 72. 清水寛厚 (1993) 大山のコメバツガザクラーツガザクラ群落. pp. 194-195. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
 73. 清水寛厚 (1993) 大山のコメバツガザクラーツガザクラ群落. pp. 194-195. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
 74. 清水寛厚 (1993) 大山のキャラボク低木林. pp. 186-187. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
 75. 清水寛厚 (1993) 大山の自然草原. pp. 190-193. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
 76. 清水寛厚 (1993) 鳥ヶ山のミヤマハンノキ林. pp. 178-179. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
 77. 清水寛厚 (1993) 椎谷神社社叢. pp. 26-27. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
 78. 清水寛厚・川上明敏 (1993) 日野川のキシツツジ群落. pp. 218-219. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
 79. Smith SE, Read DJ. (2008) *Mycorrhizal symbiosis*, 3rd edn. San Diego, CA: Academic Press.
 80. 鷺見寛幸 (1993) 本宮の泉のバイカモ水生群落. pp. 264-265. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
 81. 高橋 宏 (2006) 氷ノ山からのコイチヨウラン (ラン科) の記録. 山陰自然史研究, 2: 42-43.
 82. 田村 淳 (2009) 鹿の採食影響下で生育する植物の生活史特性. 神奈川県自然環境保全センター報告, 7: 50-58.
 83. 棚田耕吉 (1993) 籠津~御崎海岸のハマヒサカキ群落. pp. 260-261. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.

- た自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
84. 棚田耕吉 (1993) 松河原のハマナス群落. pp. 262–263. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
85. 田中昭彦 (1983) オオバミゾホオズキを扇ノ山で発見. 鳥取生物, 17: 12–13.
86. 田中昭彦 (1984) シダ植物新産地短報 (I). 鳥取生物, 18: 8–9.
87. 田中昭彦 (1986) 鳥取県種子植物新産地報告. 鳥取生物, 20: 9–10.
88. 田中昭彦 (1992) 地域植物研究 鳥取県. 植物の自然誌 プランタ, 21: 64–70.
89. Tanaka, T (1995) *Veronica X myriantha*, a new hybrid from the Kansai District, Japan. J. Jpn. Bot., 70: 260–269.
90. タンポポ調査・近畿2005実行委員会 (2006) タンポポ調査・近畿2005報告書. タンポポ調査・近畿2005実行委員会 (大阪) 69 pp.
91. タンポポ調査・西日本2010実行委員会 (2011) タンポポ調査・西日本2010調査報告書. タンポポ調査・西日本2010実行委員会 (大阪) 144pp.
92. 寺尾 博 (1979) 日本産コミヤマカタバミ (広義) に関する植物地理学および分類学的研究. 植物分類・地理, 30: 45–64.
93. 鳥取県日野総合事務所福祉保険局 (2010) 自然保護監視員の野の花だより. <http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=47583> (2010.12.20).
94. Tsutsumi, C. and Yukawa, T. (2008) Taxonomic status of *Liparis japonica* and *L. makinoana* (Orchidaceae): A preliminary report. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. B, 34: 89–94.
95. 株式会社 ウエスコ (2003) 「千代川植物調査業務」及「八東川植物図作成」 河川水辺の国勢調査 河川調査編・植物調査編報告書. 国土交通省中国地方整備局, 234pp.
96. 鷺谷いづみ (1998) サクラソウの目一保全生態学とは何か一. 地人書館 (東京) 229pp.
97. 鷺谷いづみ (編) (2006) サクラソウの分子遺伝生態学—エコゲノム・プロジェクトの黎明—. 東京大学出版会 (東京) 300pp.
98. 山本晴恵・木原清志 (1987) 鳥取県におけるカラフトダイコンソウの発見. 鳥取生物, 21: 23–24.
99. 山本晴恵・木原清志 (1991) 鳥取県八頭郡佐治村木合谷のシダ植物採集目録. 鳥取生物, 25: 10–14.
100. 山本晴恵・清水寛厚 (1993) 唐川湿原. pp. 224–225. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
101. 山本晴恵・清水寛厚 (1993) 菅野湿原. pp. 228–229. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県 275pp.
102. 山根光昭 (1996) 八葉寺川周辺の植物について. 鳥取生物, 29: 6–8.
103. Yamato, M., Yagame, T., Iwase, K. (2011) Arbuscular mycorrhizal fungi in roots of non-photosynthetic plants, *Sciaphila japonica* and *Sciaphila tosaensis* (Triuridaceae). Mycoscience, 52: 217–223.
104. 安原修次 (2005) 大山・蒜山の花. ほおずき書籍 (長野) 198pp.